一宮市観光ガイドマップ

歴史街道を歩く 美濃路 Minoji

美濃路は中山道の垂井宿と東海道の宮(熱田)宿を結び、大垣・墨俣・起・萩原・稲葉・清須・名古屋の7宿がありました。中山道や東海道などの五街道に付属する街道として、五街道と同じく幕府の道中奉行の支配下に置かれました。将軍や大名、朝鮮通信使や琉球使節などの大通行や、象、お茶壺などの特殊な通行にも美濃路が利用されました。東海道の難所である鈴鹿峠と、桑名と宮の間の海上「七里の渡し」を迂回することができたためと思われます。

美濃路の起源を裏付ける伝馬朱印状は残っていませんが、美濃の一部で中世の鎌倉街道に重なる区間があり、尾張では天正のころ織田信雄が中島郡井口(稲沢市井之口町)から河室(一宮市萩原町串作)に至る幅5間(約9m)の幅員道路をつくらせたのが原型となっていると考えられます。中山道や東海道と同様に、江戸時代の初期からおよそ400年の歴史がある魅力の多い街道です。

22 人柱観音 Hitobashira(human sacrifice) Kannon MAP F-3

慶長(1596～1615年)のころ、木曽川の分流、小信川の築止の難工事に人柱として選ばれた少女だと伝えられる与三と、農尾大橋の架橋工事で亡くなった3名をまつる人柱観音が昭和32年(1957年)に開眼しました。

23 宮河戸跡 MAP F-3

大明神社の前から対岸の新井村(現・羽島市)の渡船河戸への渡し口で、起宿の商家が商う物資を運ぶ船が発着する湊でした。

23 起の大イチョウ The Big Ginkgo Tree of Okoshi MAP F-3

樹高30mほどのいちょうの巨木。昭和38年(1963年)愛知県指定天然記念物。

23 起のヤマガキ The Persimmon Tree of Okoshi MAP F-3

野生の柿の大木で、平野部で生育している例は極めて珍しい。昭和42年(1967年)愛知県指定天然記念物。

30 馬頭観音 Batō Kannon MAP I-4

宝暦13年(1763年)に萩原の馬持ち12名が発起人になって建立しました。

左側が馬頭観音

31 正瑞寺 Shouzuiji Temple MAP I-4

正瑞寺がある曲がり角には高札場が設置されていました。

24 披本陣跡 Site of Hiraki Honjin MAP F-4

起宿の本陣に異変が生じた際の待避所として、隣の小信中島村の吉田家をこれに当て、披本陣としました。

26 天神の渡し跡 Site of Tenjin Ferry MAP H-4

日光川は、かつて木曽川の主流のひとつで、慶長年間(1596～1615年)までここに渡船場があり、「天神の渡し」といいました。のちに川幅が狭まりて渡しは廃止されました。

28 萩原宿本陣跡 Site of Hagiwara Juku Honjin MAP I-4

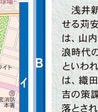
萩原宿本陣職は森権左衛門が世襲しました。寛永年間(1624～1644年)には、日光川筋の西之川一帯の新田開発につとめたことで知られます。

33 起宿高札場跡 Site of Okoshi Juku Kosatsuba MAP G-3

幕府の基本法令を書いた高札が掲げられた高札場を再現しました。

25 駒塚道道標 Signpost of Komazukadō MAP G-3

美濃駒塚の殿様といわれた尾張藩の家老石河佐渡守が名古屋へ参勤するために駒塚道を開きました。この道標は、美濃路との追分に慶応3年(1867年)に建てられました。



27 孝子佐吾平の碑 Monument of Kōshi Sagohei MAP H-4

吉藤村の住人で萩原宿の馬方だった佐吾平は、盲目の母を孝行する息子として評判が高く、ある日桑名馬を取り押さえるため参勤途上の明石藩主の行列を乱して、無礼討ちにされたと言い伝えられています。

29 萩原宿の上問屋場跡 Site of Hagiwara Juku Kamotoshiba MAP I-4

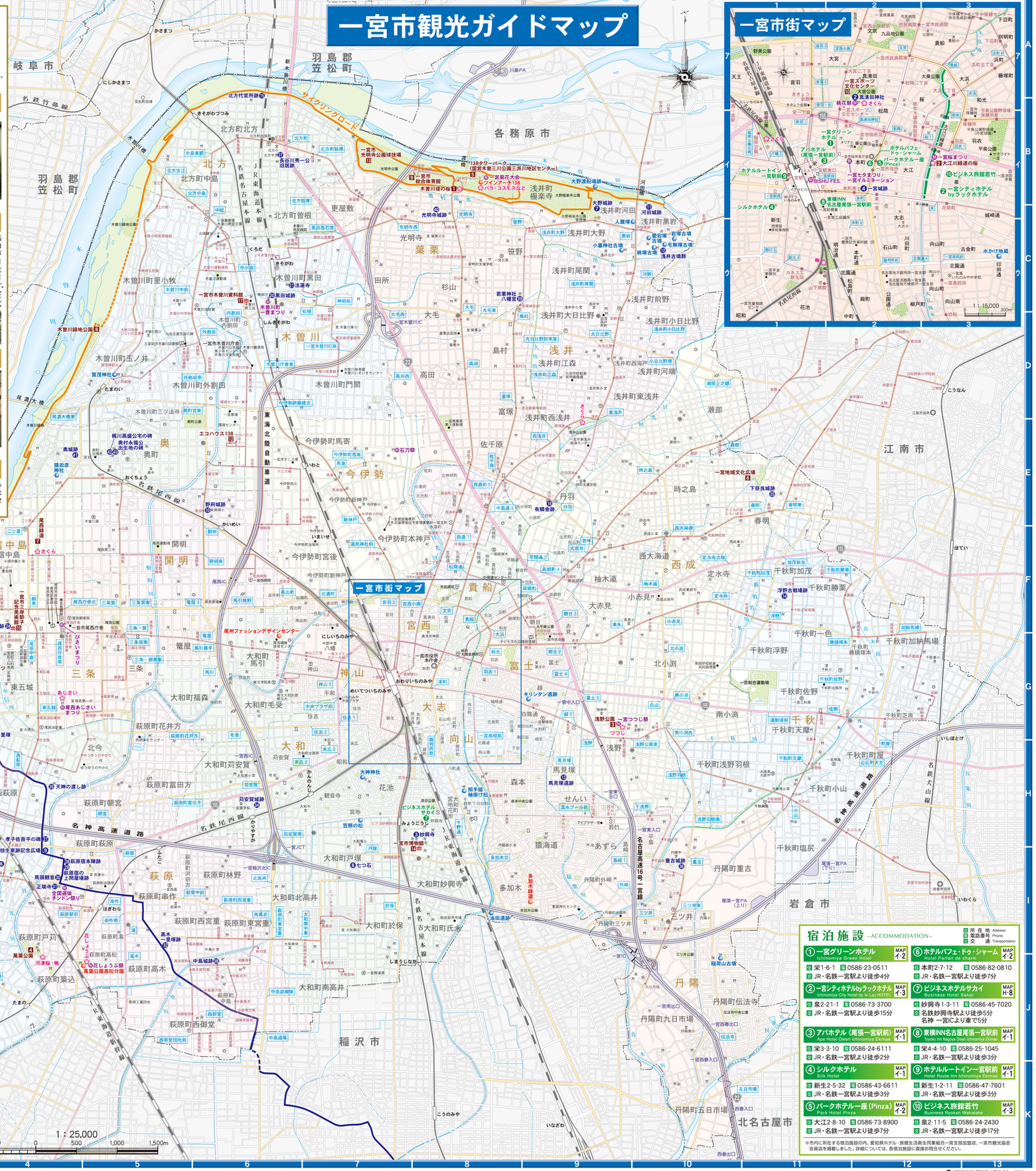
萩原宿には上町と下町の2か所問屋場が置かれ、上問屋・下問屋といわれ、2日交代で人馬の継ぎ立て業務を行いました。ここ上問屋は鞘師家、下問屋は木全家が勤めました。

32 高木一里塚跡 Site of Takagi Milestone MAP I-5

明治初年まで道の両側に塚があり樹も残っていたそうですが、いつの間にか円形の田になっていたといいます。東側に昭和37年(1962年)「一里塚跡」の石碑が建てられました。

美濃路散策コース

- 22 人柱観音
- 19 旧湊屋主屋
- ↓ 400m
- 23 宮河戸跡、起の大イチョウ・ヤマガキ
- ↓ 1,100m
- 24 披本陣跡
- ↓ 1,000m
- 33 起宿高札場跡
- ↓ 100m
- 1 起宿脇本陣跡・旧林家住宅
- 16 一宮市尾西歴史民俗資料館
- ↓ 1,200m
- 25 駒塚道道標
- ↓ 50m
- 18 冨田一里塚
- ↓ 1,100m
- 26 天神の渡し跡
- ↓ 700m
- 27 孝子佐吾平の碑
- ↓ 550m
- 28 萩原宿本陣跡
- ↓ 50m
- 29 萩原宿の上問屋場跡
- ↓ 50m
- 30 馬頭観音
- ↓ 100m
- 31 正瑞寺
- ↓ 1,700m
- 32 高木一里塚跡



凡例

県界	1 史跡関連	文 小・中学校	
市界	1 施設・名所	図 図書館	
JR	1 宿泊施設	病 病院	
私鉄	1 主な観光地	郵 郵便局	
高速道路	博 博物館・美術館	警 警察署	
国道 22	名 名所・旧跡	神 神社	
県道	1 主なイベント	寺 寺院	
バス路線	花 花の名所	大江3 主要交差点	
美濃路	市 市役所		
サイクリングロード	大 大学・高校		

1:25,000 500 0 500 1,000 1,500m

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の1万分1地形図及び電子地形図25000を使用した。(承認番号 平27情使、第1025号)」

宿泊施設 -ACCOMMODATION-

所在地 Address / 電話番号 Phone / 交通 Transportation

① 一宮グリーンホテル Ichinomiya Green Hotel	MAP イ-2	住 栄1-6-1 電 0586-23-0511 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩4分
② 一宮シティホテルbyラックホテル Ichinomiya City Hotel by ie Lac HOTEL	MAP イ-3	住 泉2-21-1 電 0586-73-3700 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩15分
③ アパホテル〈尾張一宮駅前〉 Apa Hotel Owari Ichinomiya Ekimae	MAP イ-1	住 栄3-3-10 電 0586-24-6111 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩2分
④ シルクホテル Silk Hotel	MAP イ-1	住 新生2-5-32 電 0586-43-6611 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩3分
⑤ パークホテル一座(Pinza) Park Hotel Pinza	MAP イ-2	住 大江2-8-10 電 0586-73-8900 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩7分
⑥ ホテルパフェ・ドゥ・シャーム Hotel Parfait de charm	MAP イ-2	住 本町2-7-12 電 0586-82-0810 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩7分
⑦ ビジネスホテルサカイ Business Hotel Sakai	MAP H-8	住 妙興寺1-3-11 電 0586-45-7020 交 名鉄妙興寺駅より徒歩5分 名神 一宮ICより車で5分
⑧ 東横INN名古屋尾張一宮駅前 Toyoko Inn Nagoya Owari Ichinomiya Ekimae	MAP イ-1	住 栄4-4-10 電 0586-25-1045 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩3分
⑨ ホテルルートイン一宮駅前 Hotel Route Inn Ichinomiya Ekimae	MAP イ-1	住 新生1-2-11 電 0586-47-7601 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩3分
⑩ ビジネス旅館若竹 Business Ryokan Wakatake	MAP イ-3	住 泉2-11-5 電 0586-24-2430 交 JR・名鉄一宮駅より徒歩17分

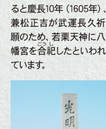
※市内に所在する宿泊施設の内、愛知県ホテル・旅館生活衛生同業組合一宮支部加盟店、一宮市観光協会会員店を掲載しました。詳細については、各宿泊施設に直接お問合せください。

郷土の戦国武将 ゆかりの地を巡る

34 苅安賀城跡 Site of Kariyasuka Castle MAP H-6

浅井新八郎が街道筋の賑わいを見せる苅安賀に築城しました。新八郎は、山内一豊の父盛豊の従弟で、流浪時代の一豊も縁を頼って寄寓したといわれています。新八郎の子・長時は、織田信雄の家老を務めたが、秀吉の策謀でためら信雄に殺され、城も落ちされました。石碑は、自動車教習所の敷地角にあります。

35 下奈良城跡 Site of Shimonara Castle MAP E-11



天正12年(1584年)、小牧長久手合戦の時に、一時的に築かれた城の一つです。羽柴(後の豊臣)秀吉が犬山城から楽田城へと移り、この城を最右翼として織田信雄・徳川家康連合軍に対抗しました。両軍の間に講和が成立すると、破却され、河田城に移されたとされています。

36 重吉城跡 Site of Shigeyoshi Castle MAP I-10

尾藤源内重吉の城と伝えられています。天正12年(1584年)、小牧長久手合戦の時、織田信雄・徳川家康連合軍の拠点城郭として維持され、清須と小牧を結ぶ連絡路を確保するための役割を担っていました。

37 長谷川秀一公旧居跡 Ruins of Hidekazu Hasegawa Residence MAP B-6

長谷川秀一は織田信長の側近で北方で生まれたとされます。現在、旧居跡の石碑は北方中学校の校門付近にありますが、元々は北方町の東渡にありました。信長の死後、秀一は秀吉に仕え、越前東郷の大名となり、東郷侍従の名で尾張名所図会に紹介されました。

38 中島城跡 Site of Nakashima Castle MAP J-6

尾張の在庁官人として、鎌倉時代以来大介職を世襲した中島氏の居館と考えられています。その子孫が中島蔵人として居城したが、特定の個人を指すのではなく、この家が官名蔵人を世襲的に用いました。室町時代末期の戦乱で廃城になったと伝えられています。石碑は、ニコニコふれあいバス停「北方城跡」西にあります。

39 若栗神社八幡宮 Wakaguri Shrine MAP C-8

天文11年(1542年)、島村に生まれた兼松正吉は、織田信長に仕え、稀狭間の初陣以来、幾多の戦いに加わり武功を重ねました。社伝によると慶長10年(1605年)、兼松正吉が武運長久祈願のため、若栗天神に八幡宮を合祀したといわれています。

40 光明寺城跡 Site of Kōmyōji Castle MAP C-8

織田信長の家臣、神戸伯耆守(ほうきのかみ)によって築かれた城です。永禄12年(1569年)に伯耆守が、伊勢の大河内城攻めの夜戦で討死にすると、信長の馬廻衆の山田半兵衛が城主になりました。石碑は光明寺保育園から北へ約150mの位置にあります。

41 奥城跡 Site of Oku Castle MAP E-4

織田信長・信雄に仕えた梶川高盛の居城です。小牧長久手の合戦では、信長の弟中根信照を迎え入れ奥城に籠もるが、羽柴(後の豊臣)秀吉の大軍を前に城を開きました。秀吉は、城将が主家筋の人物であることから助命し、城兵全員の退城を許したものと推定されます。見学の際は、関係者に了承を得てください。

42 梶川高盛公宅の碑 Monument of Takamori Kajikawa House MAP E-5

梶川高盛は、高秀の子で、父とともに奥村(現在の奥町)へ移ったと思われます。天正元年(1573年)、高盛は織田信長に従い、足利義昭が籠もる槇島城(京都府宇治市)攻めに加わりました。その際、宇治川で先陣を乗たし、信長から馬を下賜されたといわれています。

43 奥村永福公出生地の碑 Birthplace of Nagatomi Okumura MAP E-5

天正12年(1584年)、越中の佐々成政は、前田利家が治める加賀・能登へ侵攻し、守将奥村永福が拠る末森城を攻め立てました。籠城軍は頑強に抵抗し、ついには利家本軍の来援を得て、城を死守しました。永福の父は、奥村(現在の奥町)に住んだとされ、永福の誕生は奥村であったともされています。

郷土の武将紹介

梶川 高盛 Takamori Kajikawa 関連史跡 41 42

大山市・常福寺所蔵

?～1596(慶長1)?

織田信長、信雄に仕えた武将です。高盛は、梶川高秀の子で、父とともに奥村へ移ったと思われます。天正元年(1573年)には、信長に従い、足利義昭が籠もる槇島城(京都宇治市)攻めに加わり、その際、宇治川で先陣を果たし、信長から馬を下賜されたといわれています。小牧長久手の合戦では、信長の弟中根信照を迎え入れ奥城に籠もったが、秀吉の大軍を前に城を開きました。

兼松 正吉 Masayoshi Kanematsu 関連史跡 30

一宮市・乾電神社八幡宮所蔵

1542(天文11)～1627(寛永4)

天文11年(1542年)、島村に生まれました。信長に仕え、稀狭間の初陣以来、幾多の戦いに加わり武功を重ねました。また、現在一宮市にある若栗神社八幡宮の社伝によると慶長10年(1605年)、武運長久祈願のため、若栗天神に八幡宮を合祀したといわれています。

奥村 永福 Nagatomi Okumura 関連史跡 35

金沢市・永福寺所蔵

1541(天文10)～1624(寛永1)

父が、奥村(現在の奥町)に住んだとされ、永福も奥村で生まれたとされています。

天正12年(1584年)、越中の佐々成政が、前田利家の治める加賀・能登へ侵攻した際、守将奥村永福が拠る末森城を攻め立てました。籠城軍は頑強に抵抗し、ついには利家本軍の来援を得て、城を死守しました。

長谷川 秀一 Hidekazu Hasegawa 関連史跡 37

福井市・永昌寺所蔵

?～1594(文禄3)?

信長の側近で数々の奉行職や検使などを務めました。

天正10年(1582年)、徳川家康一行が信長の本拠安土を訪れた際、秀一は接待を命じられ、上方見物の案内も務めましたが、堺滞在中に、信長が本能寺で襲われたため、家康らと伊賀越えで無事に逃れたとされています。

浅野 長政 Nagamasa Asano 関連史跡 3

東京大学資料編纂所所蔵 模写

1547(天文16)～1611(慶長16)

春日井郡北野村(現在の愛知県北名古屋市)の安井家に生まれました。

織田信長の弓衆をしていた叔父・浅野長勝に男子がなかったため、長勝の娘・やや(弥々)の婿養子として浅野家に迎えられ、家督を相続しました。秀吉に嫁いだ ねね(祢々)も長勝の養女であることから、秀吉は相婿にあたり、信長に仕えたのちは秀吉の家来となり、五奉行を務めました。

不許複製(都設審作権所有)
ジャパンロードマップ・調製
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-16-29 TEL.052(951)0151・1346(代)